様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

茨木市中心拠点再生地区

令和7年２月

大阪府茨木市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	茨木市	地区名	茨木市中心拠点再生地区			面積	55.8ha
交付期間	令和2年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	6889.5百万円	国費率	0.5		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園、地域生活基盤施設（緑地）、高次都市施設（地域交流センター）、誘導施設（社会福祉施設・教育文化施設）
	提案事業	事業活用調査（デザインガイドライン計画策定・事業活用調査）、まちづくり活動推進事業（公園・高次都市施設等オープン時社会実験）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	－	－	－
	提案事業	－	－	－
新たに追加した事業	基幹事業	－	－	－
	提案事業	事業活用調査（立地適正化計画改定）	当計画の進展を踏まえた中で次期計画の策定を見据え、立地適正化計画改定の必要性が生じたため。	なし

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	令和2年度～令和5年度	－
	変　更	なし	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値 モニタリング	数値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	大ホール利用率	%	62.0	H26	72.0	R5	－	74.7	○	あり	都市機能再編による、新たな市の顔として大ホールを含む「おにクル」という拠点が形成された。「おにクル」は多様な機能が集積しており、その開館前後には周辺で多数の社会実験やイベント等が実施された。その結果、市民のシビックプライドが醸成され、市民が誇れるまちづくりが進んだと考えられる。そうした状況から考察すると、「おにクル」の整備とその一連の取り組みは、「おにクル」が市民が誇れる「ハレの場」となることの一助になると共に、大ホールの利用率増加にも貢献したと考えられる。	－
指標2	子育て関連施設利用者数	人/年	58,749	H30	73,100	R5	－	123,412	○	あり	今回の事業により、子育て関連施設利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設を集約（ワンストップサービス化）するなど文化複合拠点創出による、子育て家庭の利便性向上が要因の一つと考えられる。	－
指標3	図書館利用者数（図書館貸出人数）	人/年	121,765	H29	134,400	R5	－	184,987	○	あり	今回の事業により、図書館利用者数が増加することとなったが、これは子育て関連施設をはじめとした文化複合拠点の創出による、幅広い世代にとっての利便性向上が要因の一つと考えられる。	－
指標4	元茨木川緑地に対する不満足度	%	48.5	H27	43.6	R5	－	39.8	○	あり	今回の事業により、元茨木川緑地に対する不満足度が減少することとなったが、これは元茨木川緑地の再整備と、「おにクル」を含めた中央公園との一体的な交流・憩い空間の創出が要因の一つと考えられる。	－

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値 モニタリング	数値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												－
その他の数値指標2												－
その他の数値指標3												－

4）定性的な効果発現状況

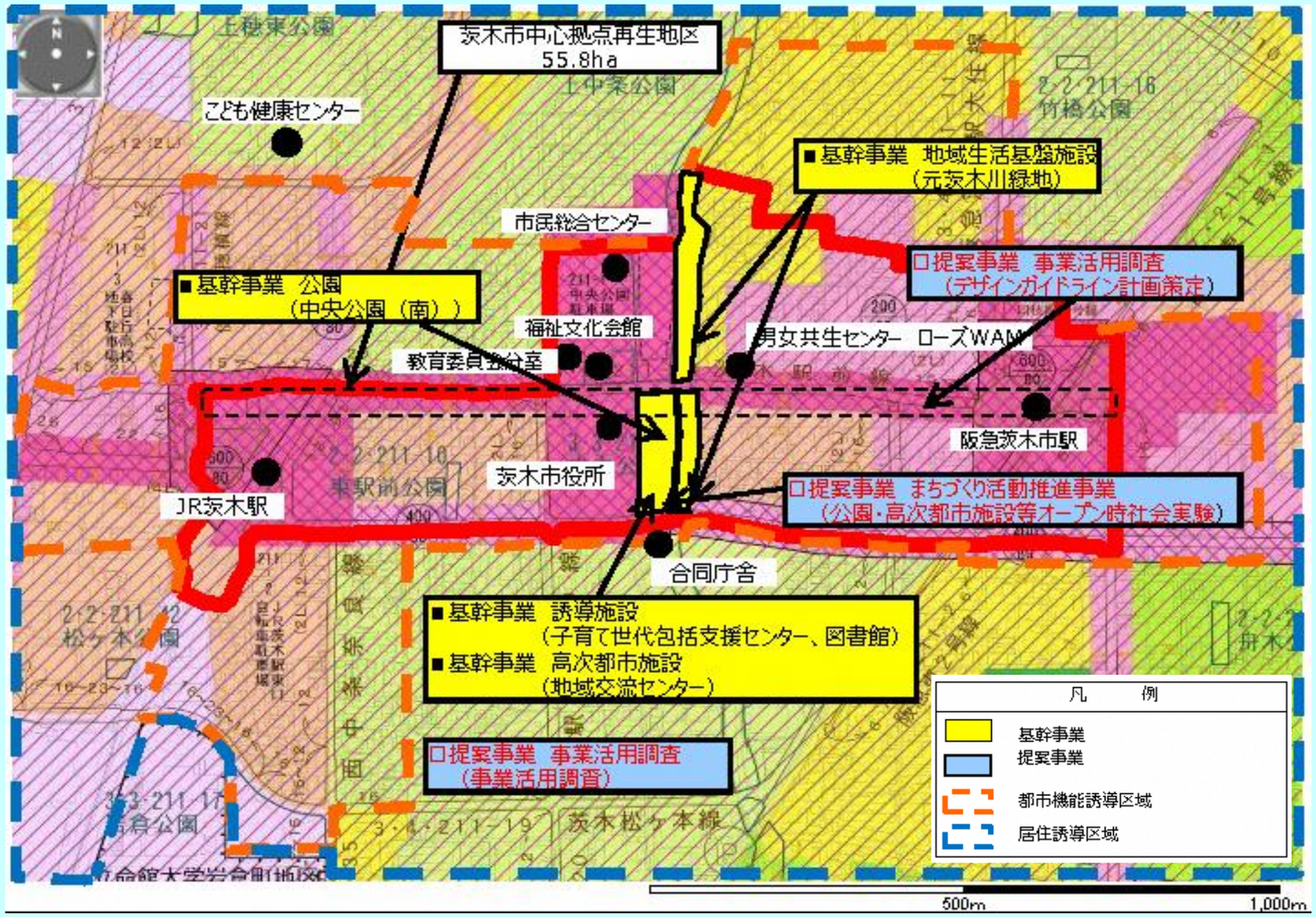
・大ホールをはじめ、その他規模に応じたイベントを開催することが可能なスペースも設けられ、市民活動がより活発になった。
・子育て関連施設を集約（ワンストップサービス型）する形で整備したことにより、子育て環境が向上した。
・子どもがのびのびと遊べる広場や屋内での遊びスペースを整備したことにより、保護者の交流の場が創出され、子育て環境も向上した。
・子育て関連施設を集約（ワンストップサービス型）する形で整備したことにより、子育てに関する相談・情報提供体制が充実し、子育て環境が向上した。
・一つ一つの椅子の形が異なる等、特徴のある図書館を整備することで、中学生や高校生等の若年層だけでなく、幅広い世代が図書館内を中心に、中央公園一帯に滞留するようになった。
・元茨木川緑地の整備により、中央公園と元茨木川緑地が一体的に活用されるようになり、これまでよりも多種多様なイベントが開催されるようになり、市民のシビックプライド向上の一助となった。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
官民連携による取組	①中心市街地の東西軸となる中央通りと東西通りにおけるデザインガイドライン計画策定に向けた将来像（素案）を検討するため、市民と専門家を交えた「いばらきストリートデザインワークショップ」を実施。 ②ワークショップの結果を踏まえ、具体的な将来イメージの共有および実現にあたっての課題等を検証するため、社会実験「茨木みちクル」を実施。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	ワークショップや社会実験の実施を踏まえ、将来的な中央通りと東西通りの一方通行化に向けて構想の検討を進めていくべく、沿道の機運醸成に努める。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

茨木市中心拠点再生地区（大阪府茨木市） 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：都市機能再編を契機とした、シビックプライド及び利便性の向上と、人々が賑わい・集い・憩うことの出来る魅力あるまちづくり 目標１：都市機能再編による、新たな市の顔としての拠点形成を契機とした、市民が誇れるまちづくり 目標２：市民ニーズを踏まえた、新たな機能導入による文化複合拠点創出による、利便性の高いまちづくり 目標３：市民が集い、誰もが交流し憩える交流空間を創出することによる、賑わいのあるまちづくり	大ホール利用率	単位：%	62.0	H26	72.0	R5	74.7	R6
	子育て関連施設利用者数	単位：人/年	58,749	H30	73,100	R5	123,412	R6
	図書館利用者数（図書館貸出人数）	単位：人/年	121,765	H29	134,400	R5	184,987	R6
	元茨木川緑地に対する不満足度	単位：%	48.5	H27	43.6	R5	38.8	R6



高次都市施設（地域交流センター）
誘導施設（社会福祉施設・教育文化施設）

地域生活基盤施設（緑地）

まちの課題の変化	・「おにクル」という文化複合拠点創出により、公共建築物の集約化・複合化が実現し、公共建築物保有量の適正化・適正配置の推進に寄与した。 ・「おにクル」の整備により、多様化する市民ニーズへの対応が可能となり、市民の利便性が向上した。特にワンストップ拠点として子育て支援体制が充実したことにより、安心して子育てができる環境が形成された。さらに、主に乳幼児向けの遊び場を整備し、子どもの遊び場が確保されると同時に、保護者が交流できる憩いの場が確保された。 ・その他にも、大ホールをはじめとした様々なイベントスペースに加え、図書館や広場スペース等が整備されることで、中学生・高校生等の若年層だけでなく、幅広い世代が憩い集うことができるようになった。 ・また、「おにクル」と連動する形で、元茨木川緑地の整備がなされ、「おにクル」を含めた中央公園との一体的・面的な交流・憩い空間が創出された。 ・こうしたハード面の整備だけではなく、令和3年度から令和5年度にかけて社会実験を実施し、ソフト面の取り組みも推進することで、まちの魅力の掘り起こしと発信による回遊性の向上を目指す等、ハード・ソフトの両面からシビックプライドの向上が実現した。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・今後も多様化する市民ニーズに対応する為、ニーズ把握に努めるとともに、施設の適切な維持管理を図り、官民連携の取組等による利用の促進を検討していく。 ・公共施設の老朽化に伴う都市機能の再編